

東大病院 地域医療連携センター通信

第11号
2023.12



TOPICS

東大病院の紹介 小児外科

医療DXの推進について

- ・初診Web予約システムの導入
- ・外来受診支援アプリの導入

第9回東大病院地域医療連携会の開催

医療連携機関登録制度について

医療連携登録医療機関のご紹介(江戸川橋皮フ科クリニック)

令和6年の診療体制について



高澤慎也 先生

内視鏡外科手術とは、胸部や腹部に数か所小さな穴を開けて、専用の手術機器を挿入し、内視鏡による映像をテレビモニターでスタッフが共有しながら手術を行います(図1)。



図1 内視鏡外科手術の様子

胸部の場合は胸腔鏡手術、腹部の場合は腹腔鏡手術と呼ばれます。一般的に、従来の開胸・開腹手術より創が小さく整容性に優れ、術後回復が早く、側彎・胸郭変形といった晩期の合併症も抑えることができる、低侵襲で患者にメリットの大きい手術です(図2)

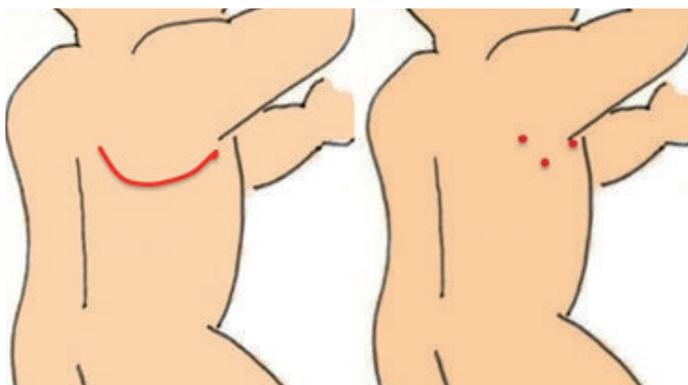


図2 創部イメージ

しかし小児の場合は、術野が小さく組織も脆弱であるため、繊細かつ注意深い操作や効率的な動作といった小児独自の高度な技術が医師には要求されます。私たちは、以前より小児内視鏡外科手術を積極的に取り入れてきた実績があります(表1)。

小児に対してはまだ実施施設の少ないロボット手術についても導入実績があり、現在は胆道拡張症を対象に行っておりますが、適応疾患を徐々に増やしていく予定です。通常の小児

疾患名	手術方法
食道閉鎖症	胸腔鏡
横隔膜ヘルニア	胸腔鏡
噴門形成術	腹腔鏡
胃瘻造設術	腹腔鏡、PEG(消化管内視鏡)
胆道拡張症	腹腔鏡、ロボット手術
ヒルシュスプリング病	腹腔鏡
鎖肛	腹腔鏡
腎盂形成術	腹腔鏡
膀胱尿管逆流症	気膀胱手術

表1 当科で行っている主な内視鏡外科手術

内視鏡外科手術で用いる術具と比較して、手術ロボットはサイズが大きいため、主に学童期以降の患者さんを対象としています。

当科では日本内視鏡外科学会の技術認定資格を持った医師が2名在籍しており、万全の体勢で内視鏡外科手術を行っております。また、人事交流のある埼玉県立小児医療センターなどの関連施設でも内視鏡外科手術を積極的に取り入れており、東京大学小児外科の医局出身者から総勢12名の技術認定医を輩出しております。

(学会HP:https://www.jses.or.jp/modules/gijutsunintei/index.php?content_id=21)

研究面では、東京大学の工学部と連携し、内視鏡外科手術のシミュレーターの開発や助手のトレーニングシステムの構築、新しい低侵襲手術の開発といったことに取り組んで来ました。詳細は当科ホームページをご参照下さい。

(<http://pedsurg.umin.jp/>)



病気の早期発見・早期治療を目的とした、 子どもや保護者向け動画の配信

小児外科疾患には出生前診断や健診で見つかる病気が多いですが、患児本人や親が症状に気付いて病院を受診して、病気が発見されることも多く経験されます。また、鼠径ヘルニアの嵌頓や中腸軸捻転、精巣捻転など、放置すると病状が悪化し、時に後遺症を残す病態も稀に存在します。そういった病気を手術で治療するのが我々小児外科医の責務ですが、ごくまれに、もう少し早く受診していただけたら重症にならなかったであろうと感じる症例が存在します。例えば、病気の知識があれば、腸捻転や精巣捻転のような急を要する状態でいち早く専門機関を受診する判断を親がすることができます。鼠径ヘルニアなどの陰部の恥ずかしい部位の病変であっても、治療して治ると知っていれば子供はちゃんと親に伝えることができ、一人で悩み苦しむ時間が短くなると想像します。

そこで当科では、子供を持つ親世代や幼児や学童にも理解できる内容の疾患説明動画を作成し、ホームページで公開する取り組みを行っています。これまでに鼠径ヘルニア、腸捻転、精巣捻転、ヒルシュスプルング病、胆道拡張症、水腎症、停留精巣(図3)の紹介動画を作成し、当科のホームページ(URL: <http://pedsurg.umin.jp/introduction>)および、東大病院公式YouTubeチャンネルで公開しております。動画は楽しみながら閲覧できるように工夫し、自分の子供やそのお友達にも見てもらいたいと思える内容を心掛けて作りました。徐々にではありますが、閲覧数も増えてきています(表2)。是非とも内容をご確認いただき、よろしければかかりつけの患者様やお知り合いの方にご紹介していただけますと幸いです。

対象疾患	2022年9月までの閲覧数	2023年11月16日までの閲覧数
鼠径ヘルニア	335	612
腸捻転	128	964
精巣捻転	474	3,541
ヒルシュスプルング病	536	2,303
水腎症		339
胆道拡張症		859
停留精巣		453
全疾患の合計	1,473	9,071

表2 公開した疾患説明動画の閲覧数の推移



図3 作成した疾患紹介動画の一部



← (疾患紹介動画はこちら)

初診web 予約システムの導入について

当院では従前より、ご紹介患者さまのご予約を東大病院予約センターにてお電話で承っておりましたが、初診予約について患者さんの利便性を高めるため、2023年10月2日(月)より初診web予約システム「やくばと病院予約※」を導入しました!!

※「やくばと病院予約」は、株式会社やくばとの運営サービスです。



「やくばと病院予約」では、患者さまご自身が「Web予約申込」でご予約出来る仕様になっています。

電話予約についても従前どおり継続いたしますが、24時間365日申込可能なWeb予約申込フォームを設けることで「電話が繋がらない」「工作中で電話が出来ない」といった事象の解消ができ、患者さまの利便性向上に繋がると考えております。



地域医療機関の皆様におかれましては、当院にご紹介いただく際に、患者さまに当予約方法についてご案内いただけますと幸いです。

配布しておりますチラシのQRコードまたは当院予約ページ

(https://patient.yakubato.jp/initial_appointments/h_u_tokyo)より利用が可能です。



外来受診支援アプリの導入により待ち時間の改善を目指します

この度、患者さんのスマートな外来受診をサポートするために、スマートフォンアプリ「EPARKスマートガイドシステム」を利用したサービスを開始しました。

医療DXの推進により、再来受付や会計の待ち時間を改善してサービスの向上を図ると共に、患者さんの手元にあるスマートフォンで多くの手続きを実行できるなど、新しい受診スタイルを提供します。これまでどおり、再来受付機からの呼出受信機の貸出も行いますので、どちらを使用するか患者さんに選択いただけます。

本アプリは、「LINEミニアプリ」という仕組みを採用しており、全世代に多くのユーザを有するLINEアプリを使用することから、LINEユーザであれば、日常的な操作感覚で学習コストがかからないうえ、新たにアプリをインストールする必要もなく、通信費以外は無料でご利用いただけます。また、本アプリの導入に合わせて、“東大病院LINE公式アカウント”を新規に開設しました。患者さんの利便性が高いコンテンツの提供を目指し、来院時に確認したいフロアマップや売店の情報、当院を知ることが出来る広報誌や公式動画サイトへのリンクも設置しました。利用の最初となるお友だち登録時のメッセージでは病院を紹介するコンテンツを自動配信してPRしています。

続いて、本アプリの各種機能についてご紹介します。「**再来受付**」は、スマートフォンの位置情報(GPS)を活用して、病院の敷地に入ると受付ボタンを押すことが出来ます。毎朝、外来診療棟の開錠前から受付待ちの患者さんで行列が来ていますので、並ばずにお待ちいただけるようになることを期待しています。再来受付機から発行している受診票(当日の予約状況が確認できる用紙)もスマートフォンから参照できます。「**予約確認**」では、任意のタイミングで予約確認ができるとともに、受診の前日にはLINEに通知でお知らせすることで受診忘れを防ぎます。「**診察まち**」は、診察待ち人数を表示する機能で、自分の前に“あと〇人”と表示されます。病院が設定した人数に到達するとLINEに通知が届くので、待ち時間の目安としていただけます。また、当院では呼出受信機という、フードコートで手にする呼出ベルのような機器で順番が来たことをお知らせしていますが、医師が呼出操作をするとアプリ利用者には「**呼出通知**」の機能でLINEに通知されます。現在、開発中の「**計算完了通知**」では、電光掲示板から離れられない計算まちの患者さんを待合ホールから解放し混雑を緩和します。「**医療費あと払い**」機能の追加によって、あと払い利用者の待ち時間「0」化だけでなく非利用者の計算を優先することで待ち時間削減が期待されます。

東大病院LINE公式アカウントとお友だち登録すると画面を参照いただけますので、ご興味のある方は是非お試しください。

お友だち登録はこちら



アプリの案内はこちら



『第9回 東大病院地域医療連携会』を開催いたしました

2023年10月12日(木)に「第9回 東大病院地域医療連携会」を開催いたしました。

第6回～第8回につきましては新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、動画配信のみの開催としておりましたが、新型コロナウイルスが5類に移行したことに伴い、今年度は4年ぶりに通常開催をすることいたしました。ただし、新型コロナウイルスの流行が完全に収束していないことから、当院に御来院いただく方を限定的にし、代わりにオンラインによるライブ配信も併用したハイブリッド開催といたしました。

連携会には、約40名の医師会関係者や地域医療機関の方にご参加いただき、またライブ配信につきましても100名近い方にご視聴いただきました連携会では東大病院の診療科における特色ある取り組みの紹介とともに、地域医療連携の取り組みについても紹介させていただきました。

また連携会の前後に開催された懇談会では、地域医療機関の方々と当院の医師や看護師、MSWなどがお互いに顔の見える状態で活発かつ有意義な意見交換が行われました。

なお今回につきましては、ハイブリッド開催だけではなく、地域医療連携会当日では発表していない診療科等の紹介動画を配信することとなりました。

こちらにつきましては、地域医療連携会での発表の様子を録画したものと併せて、下記の通り配信しておりますので、是非ご視聴ください。

開催URL:

https://www.youtube.com/playlist?list=PLMtbE6E1_afk-pXWq4l-9FjJMjC1ITwyo



配信期間:2023年11月1日(水)～
2024年1月12日(金)

また動画を視聴した感想についてアンケート回答ご協力をお願いします。

<https://forms.office.com/r/kQV5M9BR4P>



今後も個々の患者さんに最適な医療を提供できる連携体制を整えるため、東大病院と地域の医療機関との連携強化に継続して取り組んでいきたいと考えています。



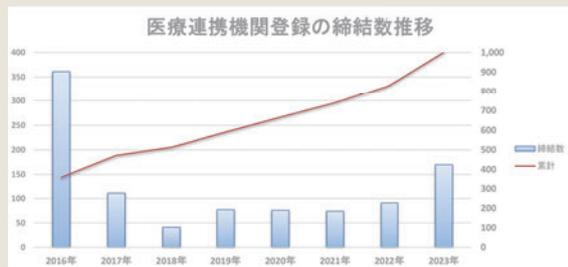
みなさまに感謝

医療連携機関登録制度の登録が、 1,000医療機関を超えました！！

当院では、一人ひとりの患者さんに最善の医療を提供するため相互に協力をするとともに病診連携や病病連携をより緊密にし、地域医療の向上を図るべく、2016年に医療連携機関登録制度を導入いたしました。

導入当初は361の医療機関のご参加によりスタートいたしましたが、その後取り組みにご賛同いただける医療機関が徐々に増え、7年目を迎える2023年9月には通算で1,000医療機関を超えました。

これまで、特定機能病院である当院と、かかりつけの主治医である地域の皆様との間で連携を深めることができたのも、ひとえに皆様のご支援とご協力の賜物であると、心より感謝申し上げます。1,000を超える医療機関との連携は、地域の医療の発展に寄与すると共に、患者さん一人ひとりへ最良の医療を提供する道筋につながるものと考えております。



現在、連携医療機関の皆様へ、地域医療連携センター通信の送付や、メールマガジンの配信、地域医療連携会を通して当院の最新情報を発信しております。また、院内設置の患者さん向けデジタルサイネージや当院のホームページにて、連携医療機関の広報や検索サービスの提供をしております。

今後も、皆様からのご意見を真摯に受け止め、医療連携の発展と地域医療の向上に努めてまいります。

今号は、ちょうど1,000医療機関目となりました江戸川橋皮フ科クリニックを紹介いたします。

※写真は通算1,000医療機関目となりました江戸川橋皮フ科クリニックさんに連携登録証お渡しした際の写真です。



ちれんのつぶやき



先日は、地域医療連携会にご出席ありがとうございました。今年度は、初めて後方連携医療機関の方々とソーシャルワーカー、看護師を対象とした意見交換会を実施しました。お名前と声は知っていましたが、初めてお顔を拝見する方もおり、ドキドキしましたが皆さん素敵な方ばかりでした。やはり顔の見える関係を築けると、転院をお願いする安心感が増すので、対面での意見交換会は貴重で大切なものと改めて感じました。また、このような機会が設けられると良いかと願っています。

そして、今回は、後方支援業務について少しご紹介いたします。

地域医療連携センターでは、11名の職員が年間1,600件以上の退院支援をしています。その中で、約600名の患者さんは、地域医療機関へ転院されます。転院調整では、患者さんやご家族の状況や希望を担当者が総合的に判断し、インターネットや過去の実績等を考慮して転院先を選定しています。当院から転院を希望する患者さんには、医療ニーズが多岐にわたる方も含まれており、転院プロセスが複雑な場合があります。そのような場合には、連携医療機関の皆様のご協力が不可欠です。今後ともご支援ご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。



医療連携登録医療機関のご紹介



いつもありがとうございます!

江戸川橋皮膚科クリニック

院長: 岡本 麻里江 先生
所在地: 文京区関口1-3-7
TEL / FAX: 03-5227-8715

最寄り駅: 有楽町線「江戸川橋駅」
3番出口より徒歩2分
ホームページ:
<https://www.edogawabashi-hifuka.com/>



皮膚疾患は自宅での軟膏の塗り方次第で大きく治療効果に差が出てくるので、実際に患者さまに軟膏をお塗りしながら外用量や頻度をご説明するようにしております。

また熱傷や、お傷に対しても通院できない日の自宅での処置方法が治療に向けて大事になりますので衛生材料の使用法・処置のコツをわかりやすくご説明するよう心がけております。

スタッフも勉強熱心で当院の看護師は皮膚疾患ケア看護師の資格を取得致しました。

地域の皆様方に支えられ日々皮膚科診療に従事できる幸せに感謝して、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医として質の高い医療をこころがけ、お肌のかかりつけ医としてお役に立てますようこれからも努力して参りたいと思います。

■どのような患者さんが多いですか?

赤ちゃんからご年配の方まで幅広い年齢層の方にご来院頂いております。

湿疹・おむつかぶれ・やけど・陥入爪など様々な皮膚疾患を診察しております。

2014年に開院し間もなく10周年を迎えます。小さなお子様からご年配の方まであらゆる年齢層の方々の皮膚病診療にとりくんで参りました。イボ・粉瘤・じんましん・アトピー性皮膚炎・ニキビ・水虫・疥癬・陥入爪など様々な皮膚疾患を診察させて頂いております。

陥入爪に力を入れており、難治にてお困りだった方も治療に導き、喜んで頂ける機会が多く遠方からもご来院頂くことがございます。



お知らせ

【令和6年の診療体制について】

令和令和6年の診療体制について、同一曜日が2週続けて祝日になることを鑑み、下記の日時を開院し通常の平日と同程度の診療体制(外来・入院)を確保しますのでお知らせいたします。

令和6年1月8日 (月・祝)

令和6年4月29日 (月・祝)

令和6年9月23日 (月・祝)